

新報国マテリアル、23年度

低熱膨張合金拡販へ

半導体・FPD装置向け

新報国マテリアルは10日、2023年度の経営計画を発表した。23年において、低熱膨張合金（インバー合金）は半導体向けが需要家の増産で在庫消化が徐々に進み、好調に推移すると想定。フラットパネルディスプレイ（FPD）製造装置向けは24年以降で需要増に向けた設備投資が回

復するとみている。シームレスパイプ用工具販売は新規油田の探掘開発で増加を見込むほか、最先端半導体製造装置向け海外展開や金属3Dプリンターの新市場開拓に挑戦する。同社は長年で蓄積した技術力によるインバー合金を世界に発信するため、航空・宇宙・天文・光工学業界を中

心に国際学会に積極的に出席し、論文発表などを通じて人的交流、関連企業と接触する地道な営業活動を継続中。23年は高い技術力をアピールして、世界への販路開拓を目指す。この活動が奏功し、世界最先端の半導体製造装置メーカーと、その関連する設計開発企

業と関係を構築し、次世代半導体製造装置の光学系ユニットをターゲットに同メーカーに参入する可能性が出ており、23年はサンプル出荷を実現させる方針。

同社は空飛ぶクルマや商用ドローンなど次世代飛行体の量産機体CFRP（炭素繊維強化プラスチック）金型向けで高耐力インバー鋼「ICWX」を開発した。航空業界に提案するため、次世代プレス成形量産技術の実機試験を行っている。インバー合金3Dプ

リントーは複数の産業機器メーカー向けに試作品を納入済みで、新たな案件も増加している。従来組織である積層造形ワーキンググループを発展的に解消

し、さらなる推進に向けて、成瀬正社長直属の専門部署を設置。製品化に向けた品質確認や装置選定を23年内に行うとともに、事業計

画を策定して三重工場（三重県川越町）への製造設備設置を決定する。

このほか、バイオマス発電ボイラー用炉底エアノズルは22年の販売実績が7700万円と前年比で1300万円増えた。23年は1億円以上を視野に入れる。ごみ焼却炉向け耐塩素開発合金「EGNIS」は22年の実機試験で「EGNIS350」の火格子が目標の耐用1年を達成した。比較的穏やかな腐食環境向け「EGNIS301C」の試験を追加し、継続する予定だ。